

2015 年 5 月 16 日  
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦  
担当ワーキンググループ主査 石田 健一

ベトナム国 バックアイ揚水発電所建設事業  
(協力準備調査(有償))  
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2016 年 4 月 25 日(月) 14:00～17:46
- ・場所：JICA 本部 (会議室：階 212 会議室)
- ・ワーキンググループ委員：石田委員、塩田委員、柴田委員、清水谷委員、長谷川委員、柳委員
- ・議題：ベトナム国 バックアイ揚水発電所建設事業準備調査に係るスコーピング案についての助言案作成
- ・配付資料：
  - 1) ベトナム国 バックアイ揚水発電所建設事業準備調査助言委員会資料
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010 年 4 月)

全体会合(第 69 回委員会)

- ・日時：2016 年 5 月 16 日(月) 14:29～17:24
- ・場所：JICA 市ヶ谷ビル(会議室：2 階 202AB 会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

## 助言

### 全体事項

1. DFR における事業概要の記述に関して、スコーピング案事前配布資料において記述されていなかった土捨場、材料採取場、および仮骨材置き場を加えること。
2. 工事管理用道路（取付道路）の詳細に関して、発電設備に関連するものの他に送電線設備に関連するものを含めて DFR に記述すること。
3. 計画地やプロジェクト区域等の用語が錯綜しているため、その統一や内容を具体的に整理して DFR に記述すること。

### 代替案の検討

4. 発電事業に伴う既設の下部調整池の揚水に伴って生じ得る事業運用上の環境負荷を検討し、その最小化を図る取り組みについて DFR に記述すること。
5. 既存 EIA と JICA ガイドライン等の乖離を示す比較表を DFR に掲載すること。
6. 発電規模に関して、合計出力が最終的に 1200MW となった経緯を DFR に記述すること。
7. 優先度の高い 10 地点、候補地の 4 地点、最有力候補地点の 3 地点、これらの絞り込みの経過に関する情報について選択基準とその検討の結果を DFR に記述すること。
8. ゼロオプションの検討が難しいことから、ノーアクションの場合の影響を検討し、「電力需要、安定電力の供給」に関して、負の影響について定量的に DFR に記述すること。
9. 本件調査における設計上（上部ダム形式及び施工方法・地下発電所位置・水路ルート・放水口施工方法・送電線ルート・上部調整池位置）の代替案検討に関しては、複数案を検討し、評価の過程および結果を DFR に記述すること。

### スコーピング・マトリックス

10. 下部調整池に関し、BOD,COD,DO の項目について、現状調査を実施し、工事中/供用時に渡るモニタリングの計画を DFR に記述すること。
11. 汚染物質（大気汚染・水質汚染）の影響を受ける住民や魚類等について、その影響に関する具体的な根拠を DFR に記述すること。
12. 一次・二次調査等で更に明らかになった環境項目においても必要に応じて評価変更を行い、その理由及び結果について DFR に記述すること。
13. 景勝地以外のコミュニティにおける重要な景観について調査継続する中で、ステークホルダーから特に指摘を受けた場合は、スコーピングに反映し、DFR に記述すること。
14. 環境モニタリングの監視結果により、さらなる負の影響が生じた場合には、必要に応じて、適切な対応を取るよう実施機関に申し入れること。
15. 工事関係者の規模を概算した上で、工事関係者が排出する廃棄物の種類や量を推測し、スコーピングに反映すること。また、この内容を工事から発生する廃棄物と分けて扱い、その対応策を DFR に記述すること。

### 環境配慮

16. 材料採取場、土砂捨て場、資材置き場が示されている地図に国立公園の位置、動植物

の分布をプロットすること。

17. 工事に伴う汚濁水の処理方法、コンクリートの残渣等の産業廃棄物の処理方法等について、DFR で記述すること。
18. 新たな鉄塔建設用道路沿いの住民・鳥類・植生等の環境等に多大な影響を与えない計画とするよう DFR で記述すること。
19. 当該地方の年間降水量が 700～800mm とのデータもみられることから、渇水時における水位調整に伴って生じ得る環境対策を検討し、DFR に記述すること。
20. 発電所構造物（発電所本体、調整池、水路、道路（工事・管理用）放水口、放水路、屋外開閉所、送電設備）関係基礎等の地盤特性の地質調査を詳細に実施するよう DFR に記述すること。

### **社会配慮**

21. 急傾斜地等において、雨季の豪雨による地滑りや土石流が想定されることから、その対策を検討すること。
22. 取付道路に関して、住民や子供が交通事故に巻き込まれる可能性についての TOR を立案し、その調査結果および対応策を DFR に記述すること。
23. HIV/AIDS 等の感染症に関して、工事作業員の流入を期に感染症が発生する可能性についての TOR を立案し、その調査結果および対応策を DFR に記述すること。

### **ステークホルダー協議・情報公開**

24. 既に提出されている EIA 報告書で記述されたステークホルダー協議からの意見の一つに、「乾季の森林火災についての懸念」が挙げられているため、本件調査においては森林火災のリスクについても評価の対象に含め、その評価結果および対応策を DFR に記述すること。

### **その他**

25. 調査項目、調査方法及び利用計測機器等について明確に DFR に記述すること。
26. 講じられる対策の効果についても可能な限り客観的な評価に努めること。

以上